刑部恵都子の生きる道

神行 2008　真の太陽の道

--導かれるままの旅で起きたこと--

2008 年、神行(1)　2008.8.15

最近とても不思議に思っていることがあります。
日本に起きている地震のことです。
これはおかしいなと思い始めたのは、7 月 7 日、富士山五合目の小富士の神行からでした。
掲示板に書き込んだように、小富士は常のような感覚の場所ではなく、まるで異次元にでも来てしまったかのような感じでした。

その頃からです。おかしなことが起き始めたのは･･･
7 月 7 日の神行の後、15 日頃から富士五湖に地震が起き始めました。
21:37 分をかわきりに 6、7連発ほどこの地域に起こったようです。

富士五湖に地震と聞いて、最初は「へぇ～～これは！」と思って見つめていましたが、しばらくして収束に向かったようでしたので、あまり気にかけない様にしていました。
その後、8 月 2 日から本格的に、三保の松原から北緯35度「太陽の道」周辺を祈り歩き始めました。
その翌日は浜名湖の北側にある細江神社に行き、祈らせていただきました。この神社はこの日から神行に参加した方が、宿舎まで来る道すがらに見つけてくれた神社でした。
｛明応 7 年の大地震によって、浜名湖は外海とつながり、その時の大海嘯（津波）により新居の角遅比古神社は流没、しかし御神璽は奇跡的にこの気賀の地に着御された。里人は牛頭天王社としてこの地に祀る････｝
大海嘯･･･つまり大津波に遇いながらも神璽が流れ着いた地であると･･･
二日目の神行の初めとしてはありがたい神社に誘導されました。そして御祭神は牛頭天王･･･つまりスサノオの命です。
このところ久し振りに、そのエネルギー、感覚を受けているところでしたので余計に嬉しい神社でした。
（多分前にも来た覚えがある神社）

すると、8 月 5 日、浜名湖付近にM4.3 の地震が起きたのです。
この頃から「えっ！ホント！ほんとに浜名湖に地震？」という不思議な感覚が生じてきました。行くところ、行くところの地に小さな地震が起きる！？
“これって何？”

しかしそれはそれとして、心を静めて前回の「太陽の道」の神行は、京都以西には行っていないことが氣になっていましたので、地図を見つめていました。すると京都の西に亀岡というところがあり、妙に目に付き始めました。
「亀岡･･･あぁ、やはりここか！･･･でも遠いな･･･」と思いましたが、この場所は今回外せないと思い、それを周りに話しました。
「何時頃行くのですか？」との問いかけに「う～～ん、この暑い最中何時が良いのだろうね」と考え込んでいました。私の体力的なこともありますし･･･

すると、唐突に私の口から･･･「もしかするとこの亀岡辺りにまた地震が起きたりしてね！？」という言葉が飛び出しました。そして次第にそれは確信に変わっていきました。

翌日 8 月 6 日、6 時 26 分
緯度 34.9　東経 135.4
この亀岡に地震が起きてしまいました。M3.8 でした。

確信があったとはいえ、あまりの速さに実はギョッとしました。
そこで上のお方さまに向かって
「チョッと待ってください･･･何をなさりたいのですか？被害がないとはいえ、それはあまりの事です！？　合図としてもあまりです･･･」と。
しかしそこまで言って「えっ、合図！？･･･これは合図なのですか？」
思わずそう呟いてしまいました。

そういえば、東京教室でワークの一環としての瞑想中に、御前崎という字が見えた直後、御前崎近くで地震が起きてちょっと驚いたことがありましたが･･･
“そうか！あれも合図と言えば合図だったのかも知れない。”
もしかしたら、日本の祈り歩きのポイント、ポイントを示唆して下さっているのかもしれない･･･
確かなポイントを収めていくための、どなたか様の示唆･･･
もしそうであるならば、ありがたいことです。

しかし 12 年前と今とでは全てが様変わりしています。
まして今は地球規模での災害に襲われているのです。
そして、災害の規模、頻度が激化してきています。
しかしこの 12 年という歳月は、私をも少しは成長させてくれました。12 年前は殆ど何も解らず行動していましたが、少しはこの太陽系宇宙のことも、神なる存在のことも理解出来てきました。
また魂の成長著しい者たちも僅かではありますが出てきています。ありがたいことに私一人の孤独な神行では無くなってきてもいます。
上のお方様に助けていただきながら、何とかこのお詫びの為の神行、やり遂げねばなりません。その決意新たにして望んだ神行でした。

その後、鳳来山まで車を走らせました。
鳳来山には、東照宮があります。その上には峰の薬師があります。日本の三大薬師如来で有名なところです。

車を降りて先ずは東照宮まで歩きます。歩きながらつくづく感じた事は、この山はなんと地場、波動、エネルギーの良い処なのか！という事でした。
東京や地方都市にはない優しい氣に満ちています。人が生きる上でとてもありがたい氣、波動･･･
そろそろこうした自然のエネルギーの多い処でなければ、人間生きられなくなるのだろうな･･･と感じた事でした。

東照宮･･･それは徳川家康と天海僧正がその当時、関東の恒久平和を願うために創り上げた結界です。それが北緯 35 度「太陽の道」更には「不死の道」のことなのです。
詳しい事は、本を読んでいただければと思いますが、今は関東を越え、日本全体の為に結界を張り巡らさねばなりません。
きっと別なる次元でお二方も、更なるお力を注いで下さっているのでしょう。
そう思いながら、心からのお詫びと祈りをさせて頂いたのですが、じつはこの時東照宮でありがたいメッセージを頂いたのでした。

2008 年、神行(2)　2008.9.29

私が神行などと生意気な言葉を使っている「祈り歩き･･･」は、私の意志で始めたことではありません。
別な世界からの示唆･･･に身も心も委ねて行なっているので、神行と言っているだけなのです。
この行は人間心や人間の身体だけで出来ることではありません。

私がこうしたことに身も心もお使いいただくまでには、それなりの時（この世の時間）がかかりました。
しかしアチラ側は常におっしゃいます。
「全ては自分が選んだのだ･･･」と。

今回の「太陽の道」の祈り歩きでは、そのことを（人間だけでは出来ないことを）トコトン再認識させられましたね。

先ずは先回のつづきの、緯度３５度の行程をさかのぼって、記していきたいと思いますが、その前に、先回のメッセージの終わりに書いた、鳳来山の東照宮で頂いたありがたいお言葉というのを先に載せることにしますね。
この言葉を頂いて同行の何人かの者達が、涙したと言っていましたので･･･

{･････私の祈りの後しばし間があく･････
よう来られた！
あなたからみれば十二年。しかしこちらからみれば一瞬･･･今･･･一瞬である。十二年と言う年月にこだわってはならず、しかし、人々の心の荒廃いちじるしく進んでいる。
このままでは日本どころか、地球全体の国々が持たない。
しかし地球は大丈夫である。地球は変化するのみなのだ。
地球の心配をすることはない。常に大きな変化、激変をものともせずこの星は生き続けてきたのである。
そこに、この学び舎に生きるそなた達人類が、そなたの言うように目覚めなければならないのだ。

今、この時も･･･そなたの言う十二年前も、それ以外の時も、常にあなたに力を注いでいる。
決して我らと魂が離れることはない。大きな大きなひとつの中の貴女もひとつであるのだから。
別なる魂の大きなひとつは、人類の行く末をあきらめてもいようが、我らの大きな魂の輪？は、いまだ人類を見放してはいないのだ。
それが故にあなたはそこにいるのですから･･･それがあなたの力となることを････???
しかし人類を信じすぎてもならん。

あなたの言うように人類とは人になりきっていない類（たぐい）のようなものなのだ。
たしかな人となった人々は、更なる高次の次元に旅立っていっている。
見守っている･･･我らは見守っている･･･}

（東照宮でのメッセージを録音したもの･･･）

その後、御前崎の先端にある、海辺で神行を締めくくりました。この御前崎の海辺はとても氣の良いところでしたが、かなり厳しいエネルギーが海の彼方から押し寄せてきているのを感じ、家から持って来ていた、十一面観音さまの写真を海に流して、この辺りの大地、人々を護るための身代わりになっていただきました。

2回目の神行の始めは、亀岡にある出雲大神宮という神社に参拝することにしました。
この神社は団体さんがバスで参拝に来ているほどの賑やかな神社のようです。

しかしその神社の中に入るとその氣の悪さは生半なものでなく“ウ～～ンここで祈るのか！？” と困惑していました。
でも19さんが一応「拝殿に入ってお祈りをさせていただけますか？」と社務所に聞きに行ってくれました。
すると社務所の外にいた神官の一人が、お守りなどが置いてある台に肘を付き、ヨッカカリながら、その辺の若者以下な行儀の悪い態度、口の利き方で、応対していた様でした。
その最後の言葉が「どこで祈っても同じだよぉ･･･」とのことらしい。
「まぁ、それはそれで間違いではありませんが････！」
この神行の時には、静かなところで思いきりゆっくりと祈りたいという私の願いで、常に神社側に交渉して貰っていたのでしたが･･･
･･･19さんはその態度にあきれ返って戻ってきました。
「あれが神官たる者の態度か？」
そんなこともあって、この神社で祈る気をなくして戻りかけたところ、社務所の中にいる女性がこちらに向かって何か話し掛けたいような様子を見せました。
そこでその女性のところに歩み寄ると「この神社の裏に元々のご神体の大岩がありますので、そちらに行かれては･･･」と言ってくれました。
神官の無礼な対応を見ていて、気を効かせてくれたのでしょう。
それに、ここの元のエネルギー（ご神霊）がお呼びになって下さったのかもしれません。
そこでゆっくりと裏に回って行きますと、そこにはそれは見事な大岩が鎮座されていました。
どうも、ここに私たちを誘導するために色々なことが起こったようですね！

小粒な雨が少し降っていましたが、その大岩の御前に塩やお酒を奉納して、その前にドッカリと座らせていただきました。するとこの前にある神社（出雲大神宮）で祭られている神々とはどうも違うように感じられてなりませんでした。
そこで「クナトの大神ですか！？」とお声をかけました。
すると、突然勢いよく一陣の風（突風）が舞うではないですか。
「よう来た！」そして「そう、怒るな！」と、まるで笑っているかのようです。

そのお言葉に嬉しくなり、幾つかの祝詞を唱えさせていただきましたところ、突然太陽が顔を出しました。
すると大岩が振動しているではありませんか･･･！
“歓んでくださっている！” そう思いましたね。
勿論、何人もの同行者から喜びの声がわきました。
するとその喜びの波動に、更なる二陣、三陣の風が巻き起こり、目の前に枝がゆっくりと舞い降りてきました。
ありがたい･･･みな大喜びです。

「神社の前で祈らなくて本当に良かった！」そこにいた者たちは、そう感じたことでしょう。
ある時、“形骸化されたところに近寄るな！” と云われたことがありましたが、つくづくそれを感じた出来事でした。

昨今、神社だから良いエネルギーがあるなんて妄想に近くなってきています。

神氣がないどころか、マイナス（邪）のエネルギーに犯されている神社が多々あることに気がつかなければなりません･･･ね。

その後は、その周辺にある氣になった場所等で祈りましたが、祈ると雨が止んで、太陽が顔を出して下さいました。
午後になって亀岡周辺の祈りを終え、車で比叡山に向かいました。
そして比叡山の麓にある日吉東照宮の中で、面白いエネルギーに囲まれてしばらく座っていましたが、日の暮れる前に比叡山延暦寺に行こうと思い立ち、長いケーブルカーに乗り「根本中堂」に駆け込みました。
素晴らしいところですね。この根本中堂は･････
じつは私始めてここに来ました。
この日もっと早く（時間）来ればよかったと後悔したほどでした。
なんせ、閉める時間寸前に駆け込んだのですから･････

でも、私が法華経を上げている姿に、お坊さん達は何も云わずに、ゆっくりと祈る時間を下さいました。
本当にありがたかったですね。感謝、感謝でした。
次回はゆっくりとこの場で祈りたいと、シミジミと思ったことでした。
ありがたいと云えば、この日は一日中、自然神のお一方「雨の神さま」に守られたようでした。
中で祈っている時は激しい雨が降るのに、祈り終わって外に出るとすぐに止む････そんな連続でした。
これも本当にありがたいことでした。

この日は京都で一泊することにしていました。
夕食には、京都で有名な千年続くという「あぶり餅屋」の女将（お弟子の一人）が合流し、楽しいひと時を過ごしました。
束の間の心の洗濯とでも言いましょうか･･･こういう時間もまた大切なものだと思っています。

翌朝、宿のすぐ傍にある祇園さん（八坂神社）に徒歩で向かいました。
この神社は牛頭天皇（スサノー神）のおいでになる神社で、私は昔からこの神社に惹かれていました。
ですから京都に来ると必ずここに参拝する慣わしが身に付いてしまっていました。
もうどれ程の回数、ここに来ているのか憶えていないほどです。
しかしそんな回数足を運んでいたこの神社で、特別なことが起こったことは今まで一度もありませんでした。

ところが今回、参拝中に驚く様なことが起きたのです。
参拝客が鈴を賑やかに鳴らすので、後ろの方に下がって祈っていたのですが、目の前に見えてきたのです。
（目は瞑っている･･･）
神殿の方から拝殿に向かって、正式な装束を身につけた天皇のようなお姿の神さまが･･･お出ましになってきたのです。

もう本当に驚きましたし、珍しく興奮してしまいました。
しかしここではゆっくり静かに祈ることは叶いません。そうした場所がないのです。私たち一組だけが拝殿に入ることは許されないのです。
残念ながら、そこでお言葉をいただくことは出来ませんでした。

この祇園さんもまた北緯 35 度の線上にあります。

2008 年、神行(3)　2008.10.5

祇園さん（八坂神社）に心を残しながら、次に向かったのは琵琶湖の南側にある、天孫神社という名の神社でした。車でその神社に近づくにつれ、心地よいエネルギーが吹いてくるのを感じました。この神社の神氣が、この一帯を覆っていたのでしょう。
昔はこうした神社が所々にありましたが、今は殆どありませんね。そうそう三保神社も10年前はこうした神氣を放っていましたが、残念ながら今は見る影もありませんでした。

その天孫神社の御祭神は彦火火出見命･大名牟遅命･国常立命･帯中津日子命の四柱の神さまです。
車を置いて神社の鳥居の前に立つと、その神社はゴミ一つなく掃き清められていました。
その前方の神楽殿のさらにその先の拝殿に正式な装束を身に付けた神官が、朗々と大払い祝詞を上げているのです。その声の響きが辺りを圧巻しています。
その後ろ姿、立ち居振る舞いは美しかったですね。
じつはこれが当たり前のことなのでしょうが、久々に感動してしまいました。

後ろの方で祝詞を聞かせていただいて、終わったところでその宮司さんにこの神社に来た訳をお話しましたところ、快く神楽殿の上での祈りを許していただきました。

前の神社とは大違い･･･
清清しいエネルギーの中で、ゆっくりと神なるお方と向き合うことが出来たこと本当に感謝でしたね。
そしてこの神社の御祭神の彦火火出見命さまは･･･火の神であり、この神は地震、火山の噴火等も司る神･･･
国常立命さまは宇宙神･･･と私が思っている神さまです。
私の祈りには常々欠かせない神々でした。

八坂さんではゆっくり祈る場所がなく、慌しい中の祈りでしたが、ここでは静かに心から祈ることが出来ました。

この頃から、皆の顔が輝いてきたようです。
その後はまた京都まで戻り、今宮神社、上賀茂、下賀茂神社と足を延ばし祈り歩いてきました。
今宮神社は元々、都に流行り病が蔓延した時に、この神社の神に祈って、その流行り病が治まったということで、元々の疫の神（スサノー神）を祀ったという事を聞きました。つまりこの神社のご祭神もまたスサノーの命だったということです。
嬉しかったですね。先程お姿はお見せいたいただきましたが、お言葉は頂けなかったので･･･

この神社では、この神社の参道で長い間（千年）あぶり餅屋をしている女将が神社に頼んで、拝殿で祈ることを許して頂いていたので、スサノーの命の御前でゆっくり祈ることが出来ました。

京都にはこうした古い良き時代を髣髴させる建物や歴史等が本当にたくさんあるのですね。
この神社もまたその一つでした･････が、困ったことに来るたびに、祈るたびに、神さまの祭り方を間違えているのでは･･･と恐れ多くも感じてしまうのです。
何故なら主祭神は後に出雲から勧請されたという大国主の命なのです。
僭越なことながらチョッとそうしたことが引っかかってしまいます。
それはまた別な機会にお話をするとして･･･

その次に行った神社は上賀茂神社です。
ところでこの上賀茂神社ってとても不思議な神社なのですね。
今まで3回ほどここに来させていただきましたが、不思議なことにこの神社で私は祈ることが出来なくなってしまうのです。

この神社では参道と鳥居･･･そして拝殿と神殿が渦巻きのような配置になっています。そして拝殿での祈りは神殿に届かないようになっている。つまり拝殿の先に神殿がないのです。
ですから、私はこの神社で祈ることが出来なくなってしまうのです。

穿った見方をすれば、庶民には祈ってもらわない方が良いと考えているのでは･･･
こんな風にも推測してしまうのですが。
そもそもこの神社は代々天皇家の守護を本気でなさっている神社のようです。
勿論下賀茂神社も一対なのでしょうが･･･
なにか秘密めいたものを感じる神社ですね。

この時はこの神社の上空だけが周りの空とは違うような･･･（まるでそこだけ空の絵を貼り付けているような･･･つまり空が動いていないのですよ！）でも身体は螺旋状に回ってしまうような感覚が生じました。
いずれにしても私にとって、奇妙な神社であることに違いはありません。

この日夕方東京組みは集中豪雨（ゲリラ豪雨）の中、帰京しました。

ここから、最終章に入ってしまいましょう。
今、掲示板に書き込まれている神行のことです。
やっと何がどう起こって、どうなったのか？　の整理がついてきました。
鳳来寺山の神行を終わった時点で考えれば、次は岡崎に行くのが順当なのでしょうが、今回は何故か初めから岡崎が最後だと決めていました。
というより、決められていたのかも知れませんね。

岐阜教室を終えて、岡崎神行の前日は蒲郡というところで一泊しました。
大きな温泉旅館の一番奥の部屋にオノコ（男性）がその手前の部屋に私たち女性が･･･泊まることになりました。
岐阜教室を終えてすぐに大雨の中、車で移動しましたし、温泉にも入って、少々心地よい疲れをおぼえていた私

は、かなり早めに寝入ったようでした。すると夜中の3時頃何かの気配にフト目が覚め、不思議な感覚が生じてきたので床の上に起きてしばらく座っていました。
すると見事な鎧･兜を身につけたお方が遠くに見えてきたのです。
「どなた様ですか？」
声をかけたところ、無言のままです。
「私の出来ることがありましたら、させて頂きます。どうぞお導きください」
そう申し上げますと静かに消えていきました。

翌朝、娘にこの話をすると「あぁ、それは本多平八郎忠勝ではないのかな。家康の側近で凄く強い武将として有名よ･･･で、この辺りの武将だし･･･」と答えが帰ってきました。
「本多平八郎･･･そうなの。それは知らなかったけど･･･嫌な気はしなかったので、言葉をかけたのだけど･･･何もおっしゃらなかった･･･」
こうした時、瞬時にその霊体の良し悪しは判るものです。このお方のエネルギーは清清しいというか、神氣に近いものがあったのです。

早めに温泉で身を清め、朝食をとってこの宿に駆けつけた者も加わり、岡崎城を目差して出発しました。
そのあと何が起こるかも知る由もなく･････

岡崎城は12年前とは違う入り口から、入ったように思います。景色に見覚えがありませんでした。
しかし家康公の像は相変わらず堂々と立っていました。
相変わらず、真向かうと跳ね飛ばされそうなエネルギーがかえって来ます。氣功師としては嬉しいのなんのって･･･
しばらくそのエネルギーと遊んでしまいましたね。

龍城神社に向かう途中に、鎧･兜に見を包んだ武将の像が立っていました。その兜には立派な鹿の角のようなものが付いています。
「明け方お越しいただいたお方さまですね。本多平八郎さまですか！　兜に付いているのは鹿の角ですね！　貴方も間違いなく神のお使いとしてこの世にこられたのですね･･･」
「どこか清めよ！と云われるのでしたら、誘導をお願い致します」
するとその途端すごいエネルギーが噴き上げてきました。これも嬉しいことの一つでした。

そこを辞して神社への道に入りますと、ふいに“巨大な杭を打て･･･”“大地に打て”と脳裏に響いてくるものがあります。
こうした時、常に起こる麻酔にかかったような状態がまた起きてきました。
それを（言葉と状態）側にいるものに伝えながら、歩みを続けます。
龍城神社に着いて、拝殿での祈りは半ば強引にお願いしたようですね。（後で知ったのですが･･･）
拝殿の中に入れていただいて、床に座り額ずき祈りを始めました。
大払い祝詞やひふみ祝詞が終わり、言葉を述べている最中に、左の方から船のようなものが動いてくるの見えました。
オールというより丸い団扇のような形のものがいっせいに開いたり、閉じたりしているのが見えます。両側で二十ぐらいでしたか･･･中には巫女さんのような方々が乗っていて、この団扇状のものを動かしているように感じました。

その船は、後ろに巨大な杭のようなものを曳いています。それが私の前をゆっくり通り過ぎていく･･･その杭のカタチには意味があったのでしょうが･･･暗くてあまり見えませんでした。
祈り終わってもしばらくは、右の方に曳かれて行くその杭を見つめていました。
「この杭で何かをせよ、と仰せなのですね」とこの神社のご祭神にそう申し上げるしか方法はありません。

少しの間だけ、ということで拝殿に入れていただいたようなので、外に移動することにしました。静かに今起きていることを整理したくて、神社のすぐ前にあるベンチに腰を下ろしたのです。
同行の人たちにこの船のビジョンのことを話している最中に「あっ、これからは多分私ではなくなると思うので･･･」と言った直後、メッセージが降りてきたようです。
その概要はこんなものでしょうか･･･

｛龍体日本･･･この龍体日本の背骨のような処に、人間と同じように巨大な七つのポイントがあって、その巨大なポイントが日本を護っている。天海も云ったように我らもまた永い間そのポイントを護り続けてきた。
しかしそのポイントの殆どが、愚かな人々の所為で力を失ってきている。
･････（中略）･････
（どうも話しながら日本地図を手でなぞっている仕草をしていたようだ。）

この岡崎城は龍体のいわば仙骨に当るところ、今そなたに巨大な杭を与えた。その杭を以ってこの重要なポイントに打ち込め･･･
それが打ち込まれなければ、この日本本体、国土そのものが大難を受けるであろう。
これを見事に大地に打ち込め･･･
これが今回のそなたのお役目なのだ･･･と。｝

私的なこともありかなり省略しましたが、こんなことがメッセージとして降りてきました。

「何処に？どこにこの杭を打てば良いのでしょうか！？」
その指摘がありません。座っている場所は龍城神社の前のベンチです。
しばらくジットして前方を見るともなく見ていますと、神社の斜め後方にある城の天守閣が光って見えてきました。
「この城の上空から天守閣に向かって先ほどの杭を打ち込めとおっしゃるのですか！？」
「そんなことが私に出来るとでも････おっしゃるのでしょうか？」
そんな言葉を投げかけたような･･･
そこから殆ど、私であって私でない世界へ移行していったのかもしれません。

2008 年、神行(4)　2008.10.10

龍城神社での祈りを終えて前のベンチで起こったこと･･･
これは私の想像や人智を超えたものでした。
それを文章でどう綴ったら良いのか･･･

やはり言語で綴るには限界があります。それを承知で読んで頂ければありがたいと思います。

ベンチの前でメッセージが降りてきた時も、私の頭（脳裏）は殆ど麻酔がかかったような状態でしたが、それでも自分はまだありました。ただこうした時は目を瞑っていても、開いていても同じビジョン、景色が見えています。

“城の上空から天守閣に向かって杭を打ち込めと･････そんなことが私にできるのでしょうか？”
そう呟いているときに、途轍もない大きな龍神がくねりながらこちらに近づいてきました。
「わぁ～わぁ～～すごい！龍神さんが今こちらに近づいて来ている･･･わぁ～！すごい鱗が･･･金色に光って･･･動いている！･･･」
見えている鱗の大きさは、ひとつが両手に収まらないほどのものでした。
それが金色にキラキラと光っているのです。しかも膨大な量の鱗が動いているのですから、そのビジョンの凄さは、ただわぁーーわぁーーと叫ぶしかなかったのです。

しばらくして落ち着きを取り戻し、その龍神さまに言葉をかけました。
その全文は省くとして、概略はこうです。

｛今、私がこの巨大な鉄槌を受け取ったことを、喜んでおられるのでしょうか？
あなたも天守閣から巨大な鉄槌を地底まで打て･･･と。
そうおっしゃるのですか？

解りました。これから天守閣に上って見ます。
あなたがお力をお貸しくださるのですね。これは私一人に出来ることではありません。
あなたのお力をお借りして、共にこの鉄槌を大地に打ち付けることに致しましょう。｝

････でもなんという綺麗な大龍神･･･
ウワァーー全てが金色の光に変わられました。
金色の大龍神。
うわぁ、すごい！
今、お顔を見せてくださった！

（注、それから光･･･光と･･･と何度も叫んでおられたようです。19さんの録音から）

この時私は全てが金色に輝く世界に入れられているようでした。
どれだけの時が経ったのか解りませんでした。

突然「行こうか！」と言ってベンチから立ち上がり歩き出しましたが、隣に座り録音をしていた19さんは大泣きしていて、なかなか立ち上がれない状態だったようです。
それはそうですよね！
同じ場所で同じようなエネルギーを受けていたのですから、正常でいられるわけもありません。
周りにいた二人から半ば介護状態で天守閣まで上ったそうですが、私は後で聞くまで、19さんがそんな状態であったことは知りませんでした。

今度という今度は私も覚悟していましたからね･･･
ベンチを立ち上がりながらこう呟いたそうです。
「この世界にまた戻ってこれるかな！？」と。

天守閣に上ると四方の扉が開いていて、“ここは風の通りの良い素晴らしく気持ちのいいところだな！”
と漠然と感じてはいました。
他にも見物の人々がいたようでしたが、殆ど気なりませんでした。すぐに何故か？丑寅の方向を向いて私が座ろうと思っていました。
すると右手の人差し指が突然、K ちゃんを指して「私の前に座って･･･」と言ったのでした。
そう言いながら“まだ私ではないのだろうな！”と思っていたのです。
「はい！･･･」
自然とＫちゃんが私の前に座り、私がその後ろに立ちました。廻りを皆が取り囲んでいるようです。

「これで良いのですね･･･私が預かった杭をあなたに放り上げます！　受け取って下さい･･･」
そう言いながら上を見上げると、上空にあの龍神さんが顔を下に向けて下さっています。

見れば私の胸の前に杭が浮いていました。
もうこうなれば、成す事を成すだけです。私の全てを全開にしました。
胸の前にある杭を龍神さんに向かって投げ上げました。
すると杭がドンドン伸びていくではありませんか。龍神さんの手の中を通って、さらに上に上にと伸びていく･････

しばらくそれを見ていますと「この杭を投げ落とすぞ･･･」
思念が響いてきました。
お願いします･･･と言いながらチョッと困惑していたことを思い出します。

私の前にＫちゃんが座っていることが気になっていたのかもしれません。
しかし、こうした時それが何の懸念材料でないことも解ってはいたのでしたが･･･

杭は勢いよく投げ落とされた･･･のでしょう。
そこからは今度、私がどんどん上空にあがっていったのです。
始めは地上に地図のようなものが見えてきました。前日泊まった蒲郡のような地形も見えています。
「えっ、これって地図！？」
さらにあがっていきます。城の天守閣のようなものから光の柱が立ち上っているのが見えてきました。
それと同時に地底に突き進んでいく光の柱も見えています。

“あぁ、杭とは光の柱だったのだ！”そう思いながら同時にその両方を見ていたのです。
さらに私は上空に登っていっているようです。
下に見える景色がどんどん変わってきていましたから。

その上では龍神さんが舞っているようです。
それも何体もの龍神さんが舞っているのが見えてきました。
そして私は地球の一部（四分の一ほど）を見下ろしていたのです。

“これでよろしかったのですか！”
･････････････････････････････････････
どれ程の時が経ったのか、気がつくとその場に座っていました。一番先に出た言葉は、やはり「K ちゃん大丈夫！？」でした。

すると「身体が重いです。ドンドン身体が下に沈んでいくので、何かが出そうになって･･･死ぬってこんな感じかなって････」
思わず私はＫちゃんの身体を撫で擦っていましたね。
「大変だったね！ほんとにご苦労様」
「皆も大変でしたね。ありがとう。これで終わったようですね」

この日からしばらくは、気持ちは淡々としていましたが、身体はそうはいきません。
細胞は振動していますし、凄まじいエネルギーが身体一杯に満ちているようでした。

（多分、身体の不調の人が側に来れば、側にいるだけで快調になってしまったことでしょう。）

そしてそれから見る夢見も、このことに関してのことが多かったのです。
その日のことがある程度、腑に落ちてきたのもこの夢見によってだったのかもしれません。
なぜなら現実の時間と、上にあがった別次元の時間があまりにも懸け離れているようだったので、なかなか腑に落ちないことがありました。
それもやっと理解できるようになるまで、かなりの現実の時間を要したという事です。
少しややこしい感がありますが･･･

ま、起きてきたことだけを追っても仕方ありませんね。
何故こうしたことが起こるのか！？
今と言う時は、ひとつの時代の大きな変革の時であることだけは確かなことです。
それも様々な次元の会い交わる（境目のない）時代になってきていることは、今までもお話してきました。
あの世とこの世･･･別次元（宇宙）の関与･･･それを補佐する龍神界･･･

ゲートが開いたのですよ。幾重もの別次元とのゲートが･･･
それをこの身で何度も体験したからこそ、言えることがあります。

あなた方が進化しなければなりません。
このゲートを自在に行き来できる為の進化をしなければならないのです。頭で考えないで下さい。このメッセージも頭で理解しようとしても解らないのではありませんか？
しかし魂は知っています。魂は全てを理解しているのです。

どれだけの人々がこの時代、このゲートを潜り抜けられるのか！？
私はそれがとても楽しみです。

常に心が平安であることを･･･生きとし生けるものの幸せを祈ります。

合掌　　刑部恵都子